

## 声明

### 神宮外苑の樹木伐採は中止を！ 再開発計画は再考を！

---

私たちは10年前、2020年東京オリンピックには旧国立競技場を改修して使うことを提案しました。2015年、ザハ・ハディド氏デザインの当初案を撤回させることには成功しましたが、旧競技場は壊され、巨大な新国立競技場が建ちました。政府は80%の国民の反対を押し切り、一年遅れの東京オリンピックをコロナ流行下、無観客で行いました。新国立競技場は使い勝手の悪い、経費ばかりかかるいわゆる「ホワイトエレファント」となっていることは、予測通りです。

オリンピック後、当時から取り沙汰された「神宮外苑をスポーツクラスターにする」再開発計画が、三井不動産を主に明治神宮・伊藤忠商事・日本スポーツ振興センターの4者で進められていることは報道の通りです。

美しい4列の銀杏並木のすぐ横に高い神宮球場（ホテル付き）が聳え、秩父宮ラグビー場は場所を変えて屋根付きでより高くなり、そのほか 190m、185m、80m の超高層ビルが建ちます。草野球場の広場は高級テニスコートになり、屋根付きの室内テニス場もできます。そして100年を生きた大樹も1000本近く切られそうです。

環境アセスメントも不十分で、都知事も環境を守る手段をとろうとはしていません。

これに対しあたらしい運動が立ち上がり、石川幹子東大名誉教授ら日本 ICOMOS、故坂本龍一さん、村上春樹さんらが反対の声を上げてくださっています。私たちも呼応して当初の目的の一つ、「神宮外苑の貴重な〈歴史と緑〉を未来へ手わたす」ことを訴えます。

神宮外苑には、1923年の関東大震災の時もまだ完成前でしたが、5万人が避難し、命を救われました。現在もその緑は木陰を造り、ヒートアイランドを緩和する役割を果たしています。

これ以上、都心の緑が減らないこと、むしろ増やすことを心から願います。

2023年9月4日

神宮外苑と国立競技場を未来へ手わたす会 共同代表 11人

大橋智子・大橋智子建築事務所

上村千寿子・景観と住環境を考える全国ネットワーク

酒井美和子・デザイナー

清水伸子

多田君枝・「コンフォルト」エディトリアル・ディレクター

多児貞子・たてもの応援団

日置圭子・地域文化企画コーディネーター・糸まち代表

森 桜・アートコーディネーター・森オフィス代表

森まゆみ・作家・谷根千工房

山本玲子・全国町並み保存連盟

吉見千晶